

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 恭子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

近年の筑豊地区の高齢化は、社会的環境の変化とも相まって深刻な課題です。開始から10年ほど経過した高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の内在方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みは早急に取り組むべき課題だと考えます。同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、筑豊地区における在宅療養中の高齢者やその家族が、質の高い生活を維持できるような看護実践を検討したいと考えています。

また、2010年は、看護実践教育センターでの主任教員として糖尿病看護認定看護師教育課程の教育も担当しています。糖尿病を抱える高齢者の多くは病歴が長いいためか、さまざまな工夫をされて生活しています。長く続く治療により生活の質を低下させないための高齢者への関わりを臨床ナースと共に検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・清水夏子, 吉田恭子, 永嶋由理子, 渡邊智子, 江上千代美, 小森直美, 安永薫梨, 尾形由紀子, 中野榮子, 石川フカユ, 鳥越郁代, 宮城由美子, 野口藍子. (2010). 助教・助手を対象とした経験型実習教育での直接的経験の教材化に関する研修会実践報告—ロールプレイを活用した学びの検討—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第8巻第1号, 37-45
- ・吉田恭子. (2010). 2年課程通信制看護教育「在宅看護論」における新聞記事を用いた教育方法の検討—成人教育学モデルの観点から—, 九州社会福祉研究, 第35号, 59-72
- ・吉田恭子. (2009). 在宅看護論実習中の学生の学びと看護師国家試験出題基準との関係—訪問看護ステーション実習中の学生カンファレンスより—, 九州社会福祉研究, 第34号, 15-28
- ・吉田恭子. (2008). 訪問看護ステーションにおける在宅看護論実習の実態と課題—訪問看護師からみた実習指導上の諸課題を中心に—, 九州社会福祉研究, 第33号, 77-90

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・単独. 「在宅看護論における学生の意識」, 第21回日本看護福祉学会全国学術大会, 2008年7月.
- ・共同. 「在宅看護論実習での学生の行動特性からみた臨地実習の課題」, 2008年8月, 第39回日本看護学会—看護教育—, 2008年8月.
- ・共同. 「通信過程の学生が新聞記事から捉えた在宅看護」, 第22回日本看護福祉学会全国学術大会, 2009年6月.
- ・共同. 「看護師2年課程通信制で学ぶ准看護師の入学半年後の看護実践における行動変容」, 第40回日本看護学会—看護教育—, 2009年8月.
- ・共同. 「通信制による看護師養成の学生が新聞記事から捉えた在宅看護—グループワークの学びを中心に—」, 第23回日本看護福祉学会全国学術大会, 2010年7月.

3. 外部研究資金

看護系学会等社会保険連合平成22年度研究助成, 「小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームへの教育プログラムの検討」, 75万円, 平成22年4月～平成23年3月, 研究代表者

5. 所属学会

日本看護福祉学会, 日本認知症ケア学会, 日本老年看護学会, 日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

老年看護論・2単位・2年・前期, 老年看護実習・3単位・3年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 総合実習・3単位・4年・前期

7. 社会貢献活動

上伊田西地区, 共同「文化祭」, 2009年11月

8. 学外講義・講演

- ・ 正清会, 共同「知って得する!糖尿病の話～おいしく食べて!楽しく飲んで!いきいき過ごそう♪～」, 2011年2月7日.
- ・ アメニティ・シルバータウン・かながわ, 「小規模多機能型居宅介護における高齢者介護とは・・・」, 2011年2月28日.
- ・ たかみねの里, 共同「第1回～第3回たかみねの里研修会」, 2011年3月1～2日, 3月8～9日, 29日.

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 看護実践教育センター主任教員